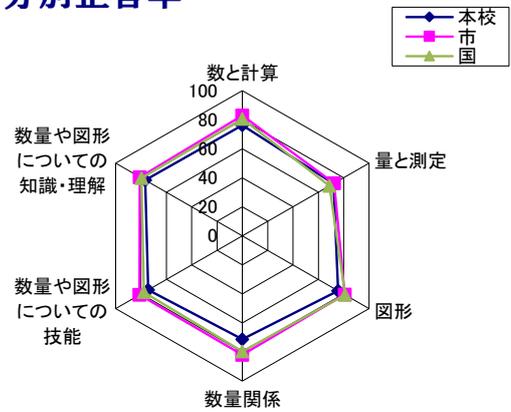


# 宇都宮市立富屋小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

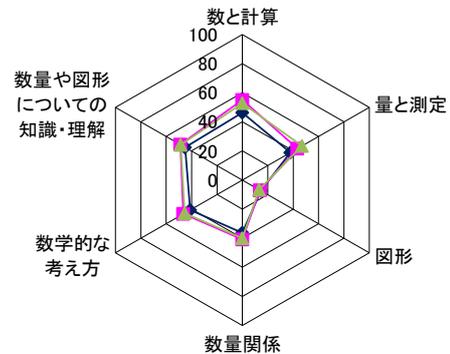
### 【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	76.2	82.9	80.6
	量と測定	72.0	72.5	68.8
	図形	75.6	80.8	81.1
	数量関係	71.2	81.9	79.6
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	74.4	81.2	77.7
	数量や図形についての知識・理解	76.7	80.9	79.7



### 【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	46.3	55.1	52.8
	量と測定	37.8	43.4	47.0
	図形	14.6	13.8	13.2
	数量関係	36.3	40.8	40.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	41.2	46.5	45.4
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	45.1	48.8	48.6



## ★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○基礎的な計算問題については、県や全国の正答率を同等または上回っているものが多かった。</p> <p>●「加法と乗法の混合した整数と小数の計算」「料金の差の求め方と答え方を書く」「直線の数とその間の数の関係」については、県や全国の正答率を大きく下回った。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>今後の指導の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計算の順序について再度復習するとともに、朝の学習の時間などを利用して、加法、減法、乗法、除法が混じった問題に取り組み、反復練習を多く取り入れ定着を図る。</li> <li>・図や数直線を使いながら、数の関係性を視覚的に捉えさせ、理解を深める。</li> <li>・少人数指導や習熟度別学習を活用して、児童一人一人の実態に応じたきめ細やかな指導の充実を図りたい。</li> </ul>
量と測定	<p>○「平行四辺形の面積の半分の面積」については、県、全国の正答率を上回り、「重さ、長さについて任意単位による測定」については県や全国の正答率と同等となった。</p> <p>●平均については、式は求められるが、平均の数値を求める方法を記述する問題については、県や全国の正答率を下回っただけではなく、無解答率も高かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平均の求め方については理解しているので、平均値を求める理由やなぜその数値を使ったのかなど自分の考えを式だけではなく、図や文章を使って表す活動を行うことで、習得を図る。</li> <li>・どの学習内容においても、自分の考えを分かりやすく伝える活動を積極的に取り入れ、数学的思考が深まるような指導を充実させる。</li> </ul>
図形	<p>○「立方体の展開図から、示された面と並行な面を選ぶ」ことについて県や全国の正答率と同等だった。</p> <p>●「正五角形をかくとき、円の中心のまわりの角を何度ずつに分割」するかについては、県や全国の正答率を下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図形の性質については理解しているので、問題で示されている部分が、授業で扱った事柄のどの部分につながるのかを視覚的に捉えさせる体験を多く取り入れ、理解できるように支援する。</li> <li>・図形を折ったり、かいたりするなどの算数的活動を多く取り入れ、一人一人の理解が深まるような体験を充実させる。</li> </ul>
数量関係	<p>○「□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ」問題や「割合を正しく表している図を選ぶ」問題については、県や全国の正答率を上回った。</p> <p>●「二次元表の合計欄に入る数」を答える問題では、県や全国の正答率を下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割合の問題については、図や数直線などを用いれば数量関係を正しく捉えることができるので、今後は数直線を用いて基準量、比較量、割合から具体的な数値を求める方法を使い分けることについて問題を適宜取り入れることで理解を深められるよう支援する。</li> <li>・基本的なグラフや表の読み取りについては概ね身に付いているので、今後は図や式を関連させて考えを表現する活動を取り入れる。</li> </ul>